

2015<sup>6</sup>年 4月 10日

動物実験計画書

宮城学院女子大学学長 殿

申請者 所属 食品栄養学科 職名 非常勤講師

氏名 鈴木 裕行



宮城学院女子大学動物実験指針第7に基づき、提出します。

1 実験担当者等

実験担当者 (教員)

食品栄養学科非常勤講師 (東北生活文化大学 家政学部家政学科教授)

氏名 鈴木 裕行

実験担当者の動物実験の経験および教育訓練の経験

動物実験の経験 18年, 教育訓練の経歴 有

実験分担者 (副手、TA、学生)

所属 教育学部健康教育専攻副手 (食品栄養学科兼務) 丑田由美

所属 健康栄養学研究科 2年 白崎葉子

所属 食品栄養学科 3年Aクラス (52名)

実験期間

2016年4月28日 (木) ~2016年6月3日 (金)

2 動物実験名 (教育・研究課題)

たんぱく質の質の評価および実験的糖尿病ラットの作成

3 実験動物 (実験動物の種・系統・性別・使用匹数を含む)

ラット:Slc:Wistar (SPF) 雄18匹;+ (サービスラット1匹) 雌1匹

4 動物実験の目的 (動物実験を必要とする理由を含む)

食品栄養学科3年開講の「栄養学実験」の実験項目である。たんぱく質の質の評価は公定法として幼若ラットを用いる方法が確立しており、教育内容として必須であるため。

また、実験的糖尿病の作成は糖尿病の理解を深めるために必要である。

5 動物実験の概要 (飼育環境、飼育方法、苦痛軽減の処置、実験終了後の処置を含む)

持続-自由給餌法で、金網ブランケットケージで個別飼育する。飼育室の条件は温度23°C、湿度50%、明暗周期08:00-20:00明期,20:00-08:00暗期とする。飼育期間は毎日給餌、給水、体重測定を行う。実験的糖尿病の作成においてはストレプトゾトシンの腹腔注射を一回する。解剖はペントバルビタールで麻酔後、十分に麻酔がかかっていることを確認後、開腹し、全血採血し、屠殺・解剖に供する。

6 動物実験実施場所

家政館5階動物実験室